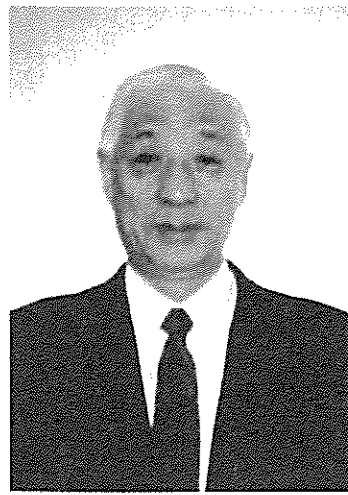


むくしま県人会だより

第 16 号
平成 19 年 8 月
福島県人会
北海道連合会

会長あいさつ

会長 長谷川 顕



『福島県人会だより』発刊に当たり一言御挨拶を申し上げます。漸く夏らしい季節がやってきましたが、オホーツク海地方は不順な天候が未だ続いております。去る五月二十六、二十七日に紋別市に於いて開催された北海道連合会総会には、大勢の参加を頂き、紋別地区県人会の献身的な御協力により、盛会裡に終了いたしましたことを先以て御報告いたします。

す。

紋別地区県人会の皆様には、衷心より厚く御礼申し上げます。大変有難うございました。

当日は公務多忙な中、佐藤雄平福島県知事御夫妻の御臨席を賜ることができましたことに感激いたしております。

ことに紋別市の皆様には、市長様を始め市議会議長、道議会議員、商工会議所会頭、観光協会会長様等、紋別市を挙げての歓迎に感謝し、感謝を申し上げます。

また佐藤雄平新知事に於かれましては、若さと行動力に富み、尚かつ美声には驚きすらおぼえ、感動いたしました。

さて、総会の議題にもなりました、三年に一度の母県訪問が、今年十月に行われることになっております。故郷を偲び、幼きときに暇に刻まれた山、川等、再度確認のため訪問されてみては如何でし

よう。大勢の仲間と語らい、酒などを酌み交わしながら故郷を偲ばれるのもまた楽しいものです。大勢の皆様参加をお待ち申し上げます。

最後になりましたが、来年の北海道連合会総会は、美幌県人会の皆様にお世話になることになりました。ホテル等の都合により、観光地としても有名な網走市に於いて開催することに決定しております。多くの会員が参加されますことを、期待を込めてお待ちしております。

それでは、会員の皆様の御健勝と各県人会の益々の御発展を祈念し、再度お会いできますことを楽しみに、御挨拶に代えさせていただきます。

新任所長あいさつ

齋藤 純一



この四月の人事異動により、福島市渡利から単身札幌にまいりました。

これまで会議や旅行で札幌を訪れるたびに雰囲気の良い魅力的な街だと思っておりましたが、実際にそこに住んで、仕事をし、生活するということとは想像したことがありませんでしたので、不安と期待の相半ばした気持ちでした。

私は、福島市南部に隣接する伊達郡飯野町（来年七月には福島市と合併する予定）の出身です。実家に暮らす大正生まれの両親にとつては、県外への転勤、それも海を越えるということは、私以上に特別な思いだったようです。おかげで電話代がかさんでしかたがあ



大勢の会員で賑やかな懇親会

りません。

一方、子供たちには、五十過ぎて、一人気ままに札幌生活を満喫できて最高じゃないのと言われていると思います。

さて、四月の別海町や千歳の県人会総会、五月の函館県人会の高龍寺碑前祭、佐藤知事御夫妻の出席のもと紋別市において開催された連合会総会など、それぞれの場で、多くの会員の皆様との交流を通じて、ふるさと福島に対する強い思いと県事務所への期待を感じた次第であります。事務所開設以来五十五年の重みと県人会の皆様とともに歩んできた歴史を顧みて、職員一丸となって職務に取り組んでまいりたいと考えております。

また、北海道と福島県との関わりの歴史を見ると、一八〇八年(文化五年)に遡り、会津藩の北の守りに始まり、その後の会津藩士の北海道移住と開拓、多くの開拓民の入植など、明治初期から大正期にかけての北海道開拓において重要な役割を果たしたところであり、先人の苦難とともにその英知とたゆまぬ努力によって築き上げられた北海道の今を享受し生活する者の一人として、改めて両道県の関わりのお大きさを感じております。

す。

今後、一層の交流促進が図られるよう努めてまいりたいと考えておりますので、会員の皆様のさらなる御支援と御協力をお願いいたします。

終わりに、本年十月の母県訪問への多くの方々の御参加をお願い申し上げますとともに、皆様の益々の御健勝と各県人会の御発展をお祈り申し上げます、あいさつといたします。

(追記)

皆様、お近くにお越しの際には、ぜひ県事務所にお立ち寄りいただければ幸いです。

会員通信

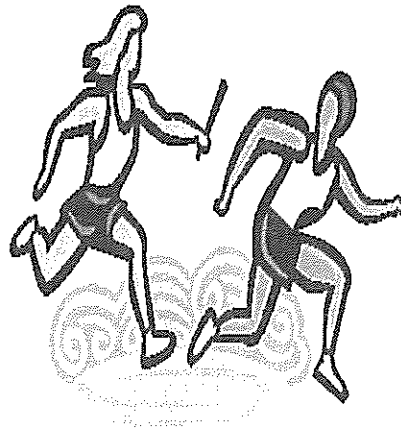
『今、ふるさとを想う』

旭川福島県人会

山口 正幸

私のふるさとは、船引町芦沢という段々畑と青空がよく似合う阿武隈山系の田舎町だ。狭い土地で稲作・葉たばこ・養蚕など、隣同

士が助け合って一生懸命生きていた。近くの大滝根川で釣りと泳ぎを覚え、小中学校では、みんな「露」や「イナゴ」をとって図書に換え勉強した。秋の取入れを終えると部落総出の大運動会だ。中でも青年団まで参加する部落対抗リレーは、不思議とみんなの気持ちが一つになった。想い出すと涙が出てくる。



ふるさとを離れ三十年、今私は、道北旭川の地を最後の棲家と決め生きている。ふるさとでのあの時代なくして今の姿はないと思う。

『ふるさと納税』、個人所得税の一定割合を育ったふるさとに納税する恩返し制度だという。そんなテレビニュースを見ていたら、ふと、ふるさと福島を想い出した。

『皆さん、お待ちしております』

美幌町福島県人会

会長 穴戸 政直

皆さん、こんにちは。十九年度福島県人会北海道連合会総会は紋別地区福島県人会担当にて盛大にホテルオホーツクパレスで開催され、佐藤知事御夫妻の御出席を頂き、とても印象に残る総会でした。特に懇親会はとても盛り上がり、余興は素人離れした方達ばかりの出演に驚きました。



佐藤雄平知事は流石、若い頃コーラスをされていたということ、発声が素晴らしく、その歌唱力には驚きました。二十七日の朝、美幌に帰る時に「来年は美幌担当で総会を開催しますのでお待ち致しております」事を申し上げましたら、来年も一曲歌わして貰いますと言っておられました。今からとても楽しみになりました。

来年の総会は美幌担当となりました。不慣れで色々心配ですが、会員一同力を結集して開催する覚悟を申し合わせし、今からフンドシを締め直して計画を立て頑張りますので、各県人会の会員の皆様様の沢山のお越しをお願い申し上げます。

OBからのお便り

元気でやっています！

第十五代所長 須永 静夫

北海道事務所から福島に帰ってきて、はや三年目を迎えました。その間、県南農林事務所（白河市）、

本庁水田畑作グループ、農林企画グループと毎年異動して腰が落ち着かない状況です。

現在は郡山で奥さんと二人暮らし（新婚生活です）ではありますが、三人息子のうち、下の二人がまだすねかじりで残っていますので、まだまだ頑張らねば。

昨年は県政史に残る不祥事により県人会の皆様にも大変ご心配をおかけしましたが、秋には新しい知事を迎え、県政への信頼回復のため職員一同日々の業務にあたっているところです。

北海道事務所勤務はわずか二年間でしたが、まず思い出すのは、「北海道と福島県の交流」をすすめるよという事で、平成十六年の連合会総会出席のため来道の折、札幌市の北海道知事公館で、佐藤前知事と高橋はるみ知事が福島県と北海道の交流の歴史やこれからの交流などについて懇談を行った際、私も同席できたこと。そして、交流のイベントとして、会津若松市で開催した交流シンポジウムに「ふくしまフレンド」の皆さんと参加したことです。

また、その年の九月にはNHKの二時間生放送「ほくほくテレビ（だったと思うけど・・・）」で福島県のPRを行ったことなどが

思い出されます。その節には、札幌県人会の皆さん（特に女性陣には）や旭川から大勢でペーパン踊りを披露していただいた皆さんには大変お世話になりました。

二つ目には、おかげさまで二年間の勤務の間に全部の県人会の総会に顔を出させていただいたことです。ほとんど真冬の開催でしたが、皆様の暖かい歓迎に触れ、全てが楽しい総会でした。北海道のあちこちで拙い歌を披露してしまつたことが恥ずかしい思い出です。

今年には母県訪問の年です。事務所のOB一同今から皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



先日、北海道で一緒に仕事をしたメンバーと会食をした折りのスナップです。こちらに戻って間もない顔ぶれですが、皆元気に頑張っています。

（左手前）大峯（左中央）川俣
（左奥）須永（右手前）酒井
（右奥）津田

連合会の活動

平成十八年度第二回役員会
平成十九年一月三十日
札幌市「KKRホテル札幌」

平成十九年度第一回役員会
平成十九年五月二十六日
紋別市「ホテル
オホーツクパレス」

平成十九年度連合会総会
第三十五回連合会総会は、五月二十六日にホテルオホーツクパレスを会場に、佐藤雄平知事御夫妻をはじめ、北海道知事（大橋香網走副支庁長代理出席）を来賓としてお迎えし、会員百六十八名が参加して盛大に開催されました。

席上、知事感謝状が小野一郎さん(旭川)に、連合会長感謝状が青田輝智さん(紋別地区)はじめ十名の方に贈呈されました。
なお、次期開催地である美幌町県人会の穴戸政直会長から歓迎のあいさつがあり、来年の再会を誓い合っていました。

新会員紹介

札幌福島県人会

神村淳一(かみむらじゅんいち) 会津若松
鶴見 寛(つるみひろし) 会津若松市
阿部朝広(あべともひろ) 郡山市

旭川福島県人会

大内芳明(おおうちよしあき) 二本松市
伊藤俊道(いとうとしみち) 郡山市
矢吹三男(やぶき みつお) 平田村
渡邊信康(わたなべ のぶやす) 桑折町
渡邊武治(わたなべ たけじ) 三春町

美幌町福島県人会

北畠安子(きたはだけ やすこ)

浜中町福島県人会

菅原秀敏(すがわら ひでとし) 会津若松
堀金博男(ほりがねひろお) 田島町
鈴木 亨(すずき とおる) 郡山市
佐藤 綾(さとう あや)

母県動向

福島県ブランド認証制度

福島県産品及びふるさと産品の中から、福島県の「誇り」ともいふべき選りすぐりの産品を選定・認証し、全国・世界に向けた戦略的な売り込みを行う新しい認証制度が、平成十八年度にスタートしました。

認証の対象は、農林水産物・加工食品・伝統的工芸品の各分野で種類が定められており、その種類ごとにブランド産品の認証が行われます。

今年三月には、第一号ブランド産品として、日本酒七銘柄が認証されました。福島県は、平成十七酒造年度の全国新酒鑑評会で金賞受賞数日本一を誇る酒どころであ

り、その中から選ばれたこれらの日本酒は、本県が全国に誇る品質の高い日本酒であるといえます。県人会の皆さんも、ぜひ御愛飲いただきますようお願いいたします。

「福島県民の日」制定十周年

郷土についての理解と関心を深め、ふるさとを愛する心をはぐくみ、自治意識を高めるとともに、県民が心を合わせてより豊かな福島県を築き上げることを期する日として、平成九年に福島県民の日が制定されました。

福島県民の日は、毎年八月二十一日です。この日は、明治九年八月二十一日に、旧福島県・磐前県・若松県の三県が合併して、現在とほぼ同じ福島県の姿が誕生したことにならむものです。

平成九年に福島県民の日が制定されてから今年で十周年になることから、本県出身の世界的指揮者小林研一郎氏とその仲間達オーケストラによるコンサートをはじめ、色々な記念行事の開催が計画されています。



編集後記

北海道と福島県の関係は、江戸末期のロシアの南下政策に備えた北方警備のため、会津藩士が宗谷、利尻、樺太に派遣されたことに始まり、来年でちょうど二百年にあたるという。明治以降、多くの福島県人が入植し、北海道発展の基礎を築いてきた。その中心的な役割を果たしてきたのは、県人会の皆さんや御先祖の方々であることは言うまでもない。
今後、両道県の交流を一層活発にするためにも、県人会の皆さんの御理解と御協力をお願いいたします。

第13回母県訪問旅行のお知らせ

今年は3年に1回の母県訪問の年で、県人会の皆さん、ふるさとを訪問して楽しい一時を過ごしましょう。
日時：10月17(水)～19日(金)
宿泊：穴原温泉、東山温泉
内容：佐藤雄平知事との懇談
北海道事務所OBとの懇談
会津地方を中心に観光地巡り